

スジグロシロチョウは、遠くからみるとモンシロチョウとほとんど同じにみえ、実際、いまだにスジグロシロチョウというシロチョウがいることさえ知らない人が多いと思われる。間近でじっくりとみれば、名前のおり翅表にはっきりとした黒い筋があるので本来判別は容易。モンシロ

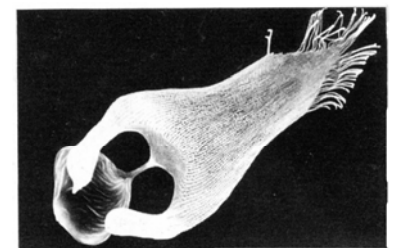


チョウ同様、♀は黒い鱗粉が目だっていて簡単に区別できる。本種には非常によく似たエゾスジグロシロチョウという近縁種がいて、最近、北海道内にあるエゾスジグロシロチョウが 2 種に分類区別できることが分かり、故白水隆博士の最後の著書「日本産蝶類標準図鑑 (学研、2006、p.61-62) によれば、

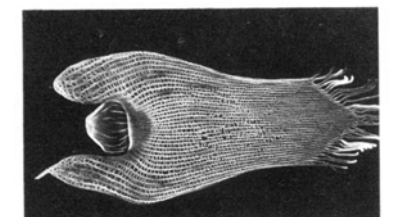
石狩平野より東にいる種を従来どおりエゾスジグロシロチョウとし、石狩平野以西と本州以南に生息する群をヤマトスジグロシロチョウと改めてよぶことになり、石狩平野では両種が混生するとの説明もある。

ところが、日本鱗翅学会会報「やどりが」の最新号 (No.19、2009) に、山形、宮城以南の本州、四国、九州に生息する上記ヤマトスジグロシロチョウを新称：シロウズスジグロシロチョウとして独立種扱いするのがいいという話がでてくるなど、いっそうややこしくなっている。どういう和名に落ちつくかは様子を見ることにして話を進める。

スジグロシロチョウは、近縁の現名ヤマトスジグロシロチョウとはあまりによく似ているため外見からの判別が容易ではなく、前翅の黒斑点模様がヤマトでは丸く、スジグロでは方形だという点で一応の判別ができる。より厳密には、発香鱗という♂が♀を誘引するために匂いを放つもととなる鱗粉を顕微鏡で観察すれば顕著なちがいがあがる。参考のために、牧村功著「日本の蝶」(成美出版、1994、p.440) からスジグロシロチョウとエゾスジグロシロチョウの発香鱗を示すと、確かに差がある。手持ちの顕微鏡を使って実際に調べてみたく、インターネット検索を駆使してこの方ならとメールで問合せたところズバリの中。発香鱗研究歴のある方で、発香鱗は羽全体に散在分布していて顕微鏡ではこういう方法で見ればいいと、知りたかったことをクイックレスポンスで教えてくれた。なにより、筆者のメールを出張先で受け取って、手元に参考資料がない状況下ホテルで記憶をたどりながら記述されたという内容は実に具体的で分かりやすく、一番知りたい発香鱗の違いをきれいな略図で示してくださるなど、ていねいで心のこもったありがたい返信である。現在手に入る専門的な蝶類図鑑の多くが「発香鱗を調べれば両種の識別ができる」とだけの記述で具体的な説明がまったくないのは不親切だ。



スジグロシロチョウの香りん



エゾスジグロシロチョウの香りん

ちょっとむずかしい話になってしまったが、スジグロシロチョウは北海道から屋久島まで分布するごく普通種なのに、高砂市内ではまずみられなく加古川の里山地区まで足を運ぶ必要がある。筆者は、高砂でも阿弥陀町市ノ池公園や竜山周辺の環境であれば発生している可能性があるともみて今後注意して調べるつもりだが、高砂は加古川などにくらべて近畿地区ではごく普通のチョウが生育できない、いかに野山の自然が少ないところかを痛感している。